

水稲「てんたかく」の割粃発生に影響する気象・生育的要因

富山農総セ・農業研究所・栽培課

てんたかくの1等米比率

2015年産てんたかくの1等米比率は78.5%と平年(87.3%)に比べて、大きく低下。

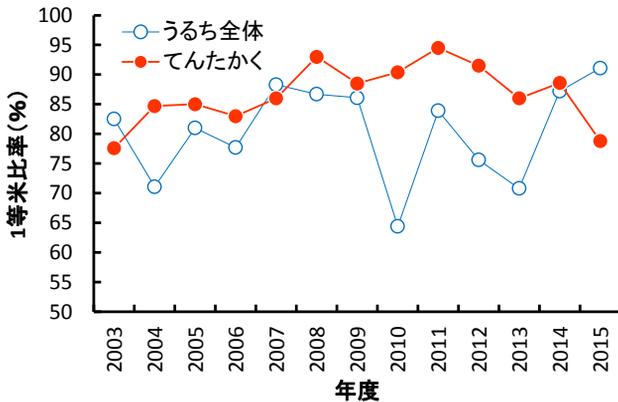


図1 てんたかくの1等米比率の推移
注) 各年12月末現在の数値



図2 割粃(左)および斑点米(右)
注) 粃の鈎合部の隙間から見える玄米に茶色の斑紋が確認できる。

- 2015年は割粃の発生が多く、斑点米が多発。では、どうして、割粃が発生する？

割粃発生のおよび栽培的要因を解析

割粃発生のおよび栽培的要因

- 出穂前15～11日の平均気温が25℃以下で、かつ出穂後0～24日の全天日射量が20MJ/m²/day以上になると、割粃率が5%以上となる。

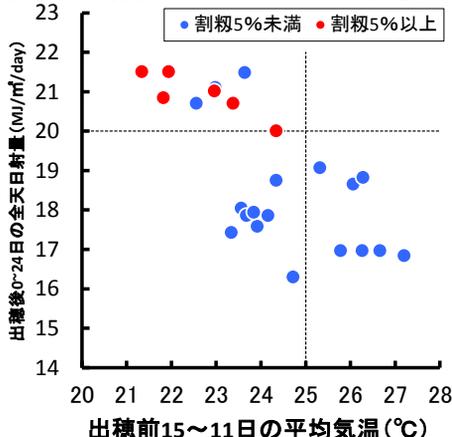


図3 出穂前の平均気温、出穂後の全天日射量と割粃率の関係(2010～2015水稲生育観測圃)

- 出穂前15～11日の平均気温が25℃以下で、「玄米の粒長と粒幅の積」(粒の投影面積の相当値)が15mm²以下となり、割粃の発生が多くなる。

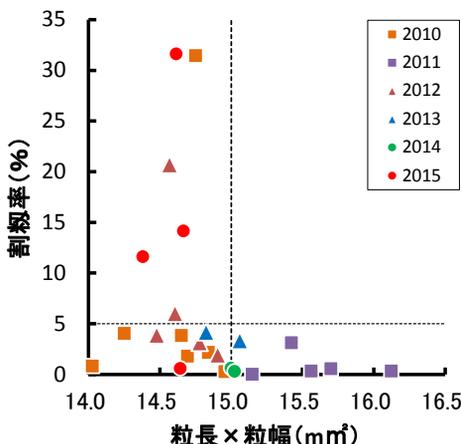


図4 玄米の粒長と粒幅の積と割粃率の関係(2010～2015水稲生育観測圃)

割粃発生のおよび栽培的要因

- 割粃率と着粒数との間に高い負の相関関係が認められる。着粒数が極端に少ない場合、粒厚2.1mm以上の粒の割合が高いためと考えられる。

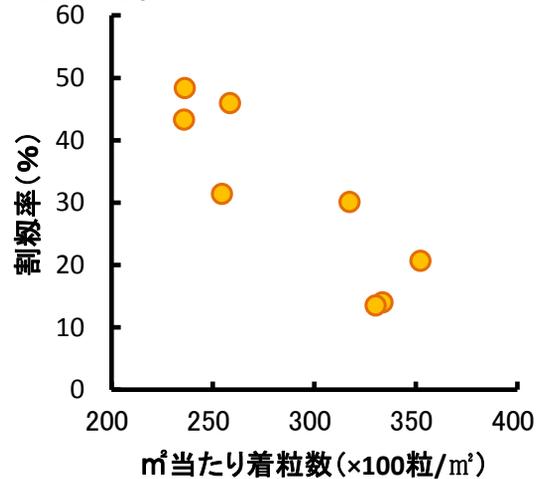


図5 m²当たり着粒数と割粃率の関係(2015 農研)

割粃発生のおよび栽培的要因の解明により

- 生育量の確保と適正着粒数への誘導により**割粃発生を低減**
- 出穂前の気象から割粃および**斑点米発生**の危険性を予測、追加防除の実施を検討

↓
斑点米による「てんたかく」の格落ちを防げる。